

令和5年度第2回
第4次武蔵野市民地域福祉活動計画推進委員会
会 議 要 録

令和6年2月21日（水）

社会福祉法人 武蔵野市民社会福祉協議会

日 時 令和6年2月21日（水）午後6時半から午後8時29分
会 場 武蔵野市民社会福祉協議会 会議室
出席委員 宇田川みち子、大屋朋代、川鍋和代、熊田博喜、田中邦忠、深田榮一、福山和彦
事務局 秋山常務理事、田村事務局長、三藤係長、横山係長、木原主任、林主任、後藤主事
傍聴者 1名

（午後6時半 開会）

1 開会

○事務局長 令和5年度第2回第4次武蔵野市民地域福祉活動計画（以下「第4次活動計画」）推進委員会にお集まりいただきありがとうございます。今回は12月に実施しまして、基本目標の振り返りを行いました。本日は、前回に続き、基本目標2の（6）から振り返りを行っていただきます。

2 委員長挨拶

○委員長 第4次活動計画の振り返りということで、具体的には基本目標2、基本目標3、そして重点的な取り組みについて振り返っていきます。本日の意見も次の計画に反映していきたいと思いますので、各委員、発言をお願いします。

3 議事

（1）資料確認と傍聴者参加について

○事務局 資料確認（略）。本日傍聴者が1名参加しています。

（2）ステップ3 振り返りシートの内容確認について ※別紙1参照

○事務局 説明（略）。（基本目標2 「人がつながる地域づくり」より（6）人や団体同士をつなげる）

○委員長 「②地域・関係機関同士の連携を強めましょう」の説明にあった「総合支援調整会議」は、どういったものなのか説明をお願いします。

○事務局 武蔵野市の相談窓口は高齢・障がい・子ども・生活困窮等、分野別に設けてありますが、それらの窓口の職員が出席し、国が進める重層的支援体制整備事業を本市でどう進めるかを検討している会議体です。それ以外に、今年度は各課でどのような相談対応をしているかなど、ケースの共有を行っています。

○委員長 重層的支援体制整備事業における多機関協働に該当するのでしょうか。武蔵野市は重層的支援体制整備事業に取り組んでいるわけではないので、多機関協働のような位置づけという理解ですね。人と団体同士をつなげるところの、特に関係機関同士をつなげるという点から、総合支援調整会議への参加、また、市で相談を受け付ける福祉総合相談窓口と連携を図ることで、市民社協の役割を果たしているのですね。

- 委員 事務局の回答に補足します。武蔵野市で令和3年度より開設した福祉総合相談窓口は「どのような相談でも断らずワンストップで受ける」ことを目的に、窓口で受けたものを各課と調整しながら伴走的に支援しています。国が進めている重層的支援体制整備事業は、まだ実施していませんが、現在策定中の第6期地域福祉計画でも目指していく方向で進めています。そのなかで、包括的な相談支援体制をつくっていこうというメニューがあり、そこにぶら下がる形で総合支援調整会議を位置付けています。日頃窓口業務を行っている様々な部署の実務担当者が、分野を超えた相談の事例研究や情報共有を行うことで、包括的な相談支援体制をつくります。当初は市役所内の部署で議論していましたが、地域の互助をどう強めるべきかという市の取り組み目標の達成に向けて、地域に詳しい強みを持つ市民社協など、市内の社会福祉法人等に声をかけて、輪を広げています。市の支援体制では気づけない方でも、地域のなかで出た「ちょっとこの人弱ってきている」などの気づきを聞き取って、市を中心とした包括的な支援体制につなげていただければ、支援につながるのではないかと考えています。そのような体制が徐々にできつつある状況です。
- 委員長 今委員が仰ったように、全国的なトレンドとして重層的支援体制をどう整備していくかが課題となっています。この事業は総合相談と参加支援、地域づくりが3本柱になっていまして、市民社協が果たすべき役割としては、地域づくりや参加支援になると思います。それらを行うには、地域住民の力を借りることが前提になると思いますので、市としても連携を進めていければということですね。そういう意味では、この項目の評価は3となっていますので、進んでいるのかと思います。また、①の「個人・団体の横のつながりをつくりましょう」について、補足をお願いします。
- 事務局 ①で事業の実施状況に記載している「武蔵野地域活動はじめてセミナー（以下「はじめてセミナー」）」は、市内の地域活動である地域社協や子ども食堂などの活動を知らない方に向けて、事業内容を紹介する事業です。令和4年度は22名の参加がありました。その参加者から地域社協に参加してみたい等の希望があった場合は、その方が住む地域の地域社協の代表者とつないだり、直近で行うイベント等の案内を行ったりしています。また、令和5年度は地域社協からの発案で、地域社協代表者連絡会とは別に、地域社協の課題について共有し合うワーキングチームを発足しました。この2つの活動を通して、団体同士が連携して地域活動を進めたり、個人が新たな活動に参加するきっかけをつくったりすることができたと思うので、この項目の評価を3としました。
- 委員長 このはじめてセミナーは、具体的にどのような内容ですか。
- 事務局 1時間の講座の中で、地域社協や子ども食堂等の説明をし、武蔵野市での現状紹介のほか、身近な地域の居場所づくりの目的や内容なども説明をしています。参加者から質問があれば都度お受けして進めています。以前は、地域社協に向けた研修として説明をしていましたが、令和4年度から広く市民を対象とした現在の形式で行っています。
- 委員長 年間で22名も参加されたというのは多いと感じました。セミナーを受けた方の中には、様子見をする方もいるでしょうが、想いが熱いうちにつないでいくことが大事だと思います。これまでの振り返りの中で、新規の人をどのように開拓していくか、

市民社協がどのように情報提供していくのかがこれからの課題だと確認していただきましたので、セミナーを行った後のつなぎについても今後の課題としてください。良い取り組みだと思うので、ぜひ続けてください。

- 委員 セミナー参加者の男女比や年齢層など、内訳を教えてください。
- 事務局 令和4年度は、年4回実施する中で、時間帯を平日夜間や土曜など変えたり、場所も武蔵野プレイスや市民社協など様々な方が参加しやすいようにして、開催しました。そのため、大学生から60歳代の方など幅広い年代の方が参加されました。男女比はこの場で正確な比率を申し上げられませんが、女性が多かったと思います。
- 委員 「①個人・団体同士の横のつながりをつくりましょう」の実施状況に書いてある地域社協のワーキングチームに参加しました。今回実施したワーキングのテーマが適切であったかはともかく、頭の中で考えるといろいろ問題点が出てくるのですが、現実的な問題点は現場でしか見えないと思っているので、現場の人たちがなにを困っているのか、どのような現実があるのか、そしてその課題を隣の地域ではどのように考えているのか、それらを共有するスタートが切れたのではないかと思います。話し合いだけでは形で見える成果は出にくいかもしれませんが、成果は形に残るものだけでなく、そこで得たいろいろな情報も次につながると思いますので、今後も現場での話し合いを続けてほしいと思いました。それが大きな力になると思います。
- 委員 ちょっと話が変わってしまうかもしれませんが、私たちの地域では、PTAを卒業された若い方々が運営している4chu-café（四中カフェ）という活動があり、地域社協としても応援しています。現在は障がい者施設で実施していますが、元々は中学校の部屋を借りたいと学校に相談したが断られてしまったなどと、運営で苦慮していることもあるようです。4chu-caféは市民社協に相談したり、助成金の申請をしていますか。相談をしているようであれば、どのように対応しているか教えてください。
- 事務局 4chu-caféからは、子どもの学習支援や居場所づくりを行う子ども子育て応援助成の申請があり、交付をしています。活動の際の助成金の使い道に関する相談を受けたほか、年度途中にも活動場所を2か所に増やしたいとのご相談も受けています。立ち上がったときに、学校のPTA室での実施を希望されていたため、市の教育関係の部署と一緒に相談に行ったり、校長先生との話し合いに同席したりしました。しかし、力が及ばず借りることができなかつたため、現在の会場で活動されています。
- 委員長 今はどこで活動されているのですか。
- 事務局 2カ所あり、1カ所目は、中学校の向かいにある障がい者施設の地下にある地域交流スペース、もう1カ所は、緑町の生徒の通いやすさを考えて、緑町内の団地にある集会室を使用しています。
- 委員長 今後、学校との連携は、この件だけではなく、たとえば、武蔵野市内で、このような動きが出てきたときに、改めて学校に対して投げかけてもよいかと思いました。ただし、学校側の理屈があると思いますので、学校の立場も踏まえつつ、落としどころをどうしていくのかが課題です。社協や住民サイドとしては、なぜ学校でやりたいのかという理由を、「場所がないから」ではなく、学校で行うことでどのような効果が出るのかをしっかりと考えて、伝えていくことが大事だと思います。

- 委員 地域社協のワーキングチームについて、年間の開催数や内容、メンバー構成など詳しく教えてください。
- 事務局 令和5年度、3種類のワーキングチームを開催しました。災害時に自宅の玄関先に出す安否確認カードに関する取り組みについて検討する「無事ですカード効果検証ワーキング」、地域社協の広報紙の配布方法をはじめとする広報手段について検討する「広報紙配布ワーキング」、地域社協の次世代をどのように増やしていく検討する「次世代につながるワーキング」があり、今年度中にそれぞれ3回程度実施したいと考えています。ワーキングの構成メンバーは、各地域社協でそれぞれのテーマについて、ほかの地域の意見を聞きたいという方に有志で参加していただいています。
- 委員 なぜそのような質問をしたかと言いますと、私はコミセンから地域活動を始めました。自分が所属していたコミセンをはじめ、市内すべてのコミセンが集まるコミュニティ研究連絡会のなかに「コミュニティのあり方懇談会」という部会がありました。市内16コミセンから1名ずつ参加して、ある一つのテーマについて議論をしていく部会です。そこに私はコミセンについて浅い知識しかなかったのですが、参加してみたら、とても勉強になったという経験があります。年間10~12回くらい開かれたので、自然と他のコミセンの方と知り合いになったり、他のコミセンはこのようにやっているのかと取り組みを伺うことができ、とても有意義だったと思いました。地域社協のみなさんは忙しいので、ワーキングチームを続けることは大変と思いますが、他の地域社協との意見交換の場は、いろいろなつながりができたり、新たな発想が出てくると思っていますので、ぜひ続けてほしいと思います。
- 委員長 非常に重要な指摘だと思います。次世代を育てるためのしかけが大事というお話だと思いました。委員も当初は望んで参加されたわけではないようですが、しかけがあって、実際入って行って、コミセンのことを学び、それがまた次代を育てる役目になっているという流れを見て、このようなしかけが、地域社協のなかでどのようにできているのかを知る必要があると思いました。もう一つ、テーマを持つことも大事だと思います。たとえば、今回のワーキングチームですと、災害や次世代、広報などの具体的なテーマを持つことで比較的にかかわりやすくなっていると思います。ワーキングチームは今芽が出てきているところだと思いますので、今後どうやって育てていくのか、次回の活動計画に活かしていきたいと思います。コミセンから学ぶことができますので、ぜひ今後もコミセンの活動も教えてください。次に進みます。
- 事務局 説明（略）。（基本目標3 「たすけあいのしくみづくり」より（7）地域での孤立を防ぐ）
- 委員 （7）の1に「市民社協では、出張相談をするにあたり」という記述がありますが、市民社協における新しい取り組みであると思いますので、実績など回答できる範囲で教えてください。
- 事務局 後ほどの重点的な取り組みでも報告いたしますが、いわゆる地域福祉コーディネーターの機能を、地域担当を中心に展開する取り組みとして、地域の方の力を借りながら、市民の困りごとの相談支援ができないかと考え、今年度地域での出張相談を開始しました。直近では、1月に市内のスーパーマーケットや鍼灸院、2月には有料老人ホームの一角をお借りして実施しました。地域の方の力をお借りした例として、

場所を検討する際に、地域の方からご紹介いただいたり、実施する際に近隣にチラシを配っていただいたりとの協力をいただいています。出張相談の実施先として、できるだけ市民の近いところに出ていく、尚且つ地域の方から悩みのある方に声をかけていただければと考えています。実績としてはまだまだで、1か所開催して数名来られる程度です。相談いただいた事例としては、様々なサービスの利用に関する問合せだけでなく、「自分が亡くなった後、県外にある親族のお墓をどう整理したらよいか」や「医療機関の受診予約がスマートフォンを使わなければならない、操作を教えてほしい」、「保険の加入内容について、保険会社の説明に不信感があって、解約等ができるかを知りたい」等があります。まだ専門機関につなぐような相談は受けていませんが、「ちょこっと出先で」という形式だからこそ相談いただいている事例もあると思いますので、引き続き地域の方につないでもらえるような出張相談を実施していきたいと思います。

○委員 地域にかかわる業務に携わるなかで、相談という看板を掲げると話しづらい、行きづらいという方もいると感じています。相談のハードルを下げる観点から、たまたま行った場所で、悩みを聞いてくれる相談員がいれば、必要に応じてサービスを紹介することもできるのではないかと思います。このような取り組みの実績は、ぜひ市にも共有していただきたいです。

○委員長 アウトリーチは大事な機能なので、出張相談はとても良い取り組みだと思います。ただし、たとえば、出張相談をとあるコンビニでやったときに、勇気が出なくてその場での相談を見送った方がいたとして、同じ場所での実施が1、2年後となってしまうと、相談しなかったのにできなくなってしまうということもあるかもしれません。前は相談できなかったけれども、次に来た時に相談しようと思った人のことも想定して、実施する場所をある程度固定化していくのも大事な視点だと思います。また、この取り組みそのものが、場所を貸してくださる方や地域の方に周知にご協力いただくなど、いろいろな方を巻き込むメリットがあると思いますので、ぜひ第5次活動計画で出張相談の本格的な展開を検討してはどうかと思いました。一方で、職員から見るとただ増やすのは負担になると思いますので、効果的に行うことを同時に考える必要があると思います。

○委員 地域活動を行う上で、昨年からは縛りをつけないことを意識しています。地域社協の活動は、今まで高齢者や障がい者のためと看板を掲げて取り組んできましたが、最近はそのような枠を外すことを心がけています。そうすると、「本来の目的と違う」という反対意見もありますので、すべて枠を外せばよいという話ではありませんが、枠をはめることによって取りこぼす人が出てくると思います。たとえば、高齢者と一括りにしても、自分が高齢者だと自覚のない人は来ません。誰でも良いですよという呼びかけも必要と思っています。出張相談も、「誰でもいいからお茶を飲みに来てください」くらいの気軽さがあるとよいと思いました。私たちの地域では、縛りをなくしたことで、若い方が来るなど、以前はなかった反応もありました。

○事務局 どなたでもという視点を前面に出していければと思います。また、少しでも相談のハードルを下げる目的で、チラシに、「話を聞いてほしいという方もぜひ来てください」と記載しています。特別な相談事がなくても話したいことがある人はぜひ来

ていただければと考えています。令和5年度の下半期から取り組み始めて、まだ試行段階ですので、いただいたご意見を踏まえて、次年度に活かしていきたいと思っております。担当職員で、市内全体を見たときに漏れているエリアがないかを確認しました。今後は新しい場所を開拓するとともに、すでに協力いただいた場所での継続実施なども踏まえて、出張相談を計画していければと考えています。

- 委員 おしゃべりのような会話から相談につながっていけばと思います。まだいろいろ試行錯誤があると思います。今後このような機能は必要になると思いますので、複数年で実績を積み重ねたり、効果検証した内容を推進委員会のような場でフィードバックしていただけると、次の活動計画にも書きやすくなると思います。
- 委員長 どこで何回やったか、どのような相談があったかなどの情報を蓄積して行って、推進委員会のような進行管理の場で話してください。良い取り組みだからこそ、どのように育てていくかが大事だと思いますので、引き続き進めてください。
- 委員 出張相談は素晴らしいことですね。市民社協の活動を、市民に知ってもらえることが一番良いことだと思います。やはり、出ていかないとわかりません。5～6年前だったかと思いますが、市民社協の職員は、市民社協と書かれたたすきを掛けて街を歩いてはどうかという意見もありました。
- 委員長 出ていくことが大事であるという一方で、効果的に出ていくという視点も大事だと思いますので、引き続き検討していきたいと思っております。

(3) 重点的な取り組みの振り返りについて ※別紙2参照

- 委員長 これから話していただく重点的な取り組みは今回初めて確認する内容となります。重点的な取り組みとして、第4次活動計画のなかでいくつか目玉となる取り組みを掲げています。これらが6年間を通してどうなったかを確認していきます。ただ一方で、この間新型コロナウイルス感染症による影響も大いにありましたので、なかなか進めづらかった点もあると思います。そこも確認しながら、まず事務局の説明を伺いたいと思います。
- 事務局 説明(略)。(重点的な取り組み (1) 居場所づくりの展開)
- 委員長 居場所づくりに関する取り組みの中から、「②運営の担い手が増える」を中心にお話しいただきましたが、ご質問やご意見をお願いします。
- 委員 武蔵野市でも同じように地域福祉計画の策定を行っていますが、様々な地域の活動において、担い手を確保していく、増やしていく、関心を持っていただくことは最大かつ喫緊の課題だと思います。この計画期間がコロナ禍を含んでいて、地域活動に与えた影響はかなり大きいと認識しています。そのなかで、活動自体はできないながらも、活動を止めないように取り組んだ工夫についても記録を残しておいた方が、今後の参考にもなるので良いと思います。
- 事務局 コロナ禍に発行した「居場所のチカラ」という冊子に、それぞれの居場所助成を受けている団体が取り組んだ工夫を、2ページに渡って掲載しました。各団体も単に休止するのではなくて、工夫をされていたので、記録に残しています。
- 委員長 今後、武蔵野市内のなかでも運営者を増やしていこうと考えたときに、居場所づくりについて話が出た10年くらい前の担い手と現在の担い手の姿が変わっていると

いう認識が必要だと思えます。10年前に定年退職した65歳の方と、現在65歳でこれから定年を迎える方とで、いわゆる居場所づくりのイメージを考えたときに、以前は健康サロンのような体を動かした介護予防的な活動をイメージしていましたが、現在は何でもかんでも健康づくりやおしゃべりをして、楽しく過ごすというニーズばかりではないと思えます。特に武蔵野市の地域性を考えると、吉祥寺を代表とするような文化の発信地に好んで住んでいるような方もいるため、改めて戦略的に考えていくと良いと思えます。文化的な活動というと、ほかの市区では趣味性が高い活動として鉄道のNゲージを走らせる活動などの事例もあります。誰もが集えることも大事ですが、少々尖った居場所の作り方も大事だと思えます。居場所の数を増やしていくうえでも同じ発想が必要だと思えます。誰でも参加できる場所は必要なので、それを否定することはありませんが、「誰もが楽しく過ごせる居場所」の展開だけで活動を広げていくことは難しいと思えます。居場所の展開について、なにか考えていることはありますか。

○**事務局** 前回の推進委員会で、角打ちを行っている酒屋さんの取り組みを伺いました。ほかにも、市民の方から受けた相談で、若い方々から好きな本をそれぞれ持ち寄って感想を言い合いたいという活動の相談がありました。また、障がい当事者の集まりで、障がいの有無関係なく、ボードゲームや謎解きゲームを一緒に楽しんだ方が、「障がいのある人と交流しましょう」というイベントより、当事者もいろいろな人との出会いを楽しめたり、障がいのない人もその方が気軽に参加してくれるのではないかとという提案もあります。このような活動に参加したい方や企画したい方は今後増えていくのではないかと予想しています。市民社協としては、既存の居場所づくりに関する助成制度の対象を今後どうするかについても、第5次活動計画の策定に併せて考えていきたいと思えます。

○**委員長** その場合に、福祉的な要素をどう担保するかということが大事だと思えます。完全に趣味の活動になってしまうと、市民社協が推進する意味が薄れてしまうような気がします。趣味性を大事にしながらも、たとえば「認知症の方を発見する」など、福祉的要素につないでいくことも大事だと思えます。担い手を増やすという意味では、そのような視点も大切だと思えました。

○**委員** 私は今、地域社協やコミセンなど複数の団体に関わっていて、吉祥寺南町居場所プロジェクトを立ち上げました。この団体は、地域のなかでもかなりファジー（あいまい）な存在で、地域社協の力を借りたり、コミセンのもつ場所や財源を使ったり、大学生に企画協力で参加してもらったりと、様々な力が集って運営しています。大事なのは、「自分たちで企画すること」だと考えています。私は市民社協がやることだからと言って、福祉に無理やり絡めるという必要はないと思っています。地域福祉において一番大事なのは、知り合いになることではないでしょうか。それがないとすべてのものが成り立たないのではないかと思います。知り合いになるためには出会いの場が必要で、その場に縛りがいない方が集まりやすいと考えています。人は集まったら、そこから違う知恵が生まれてくると思えます。若い人がたくさん参加したり、ダイナミックな動きが生まれてくると考え方も変わると思いますが、現在立ち向かっている課題を考えると、今行うべきことは知り合いづくりをする時期ではないかと思います。

私は若い人がものすごく地域に関心を持っていると思っています。そういう方たちの力を引き出すために、まずは土俵づくりをすることが現状だと思うので、吉祥寺南町居場所プロジェクトのような取り組みであったり、あるいは勝手に集まれるような取り組みが必要だと思っています。なかなか市や市民社協でそのような場を公に推進するとは言いづらいでしょうが、そのような場をどのように生かせるかという視点は大事だと思います。

○**事務局** 今仰った“勝手に集まる”という視点について、出会ったところで仲良くなれないと支え合いのまちづくりには発展しないというご指摘はその通りだと思います。集合住宅が多い武蔵野市において、住民同士が出会う最初の一步となる場はいろいろあると良いと思いました。

○**委員長** そういう動きがあることを市民社協としても押さえておくことが大事だと思います。知らない動きがあっても仕方ありませんが、まったく知らないと介入できないので、まずはそういったムーブメントを把握すること、そのうえでどう連携が取れるか考えるのが大事だと思います。

○**委員** 居場所というと高齢者をイメージする方が多いと思います。ですが、高齢者はわりと出かける居場所は多いと思います。私は10年ほど前からコミセンで0～3歳の子どもが遊ぶ広場活動を行っています。始めたときは、20名くらいの参加があったと記憶していますが、コロナ禍で少なくなり、現在は3～4名しか参加がありません。この間、地域の状況も変わりまして、1歳から子どもを預けられる場所がずいぶん増えましたので、2時間子どもを見てくれる近所の人よりも、半日くらい預かってくれるサービスを利用した方が、自分の時間が取りやすいので、そちらを利用される方が多いのだらうと思います。また、近所にある旧赤星邸の活用について話し合う中で、最近中学生の居場所がないという声をあちらこちらでよく聞きます。コミセンのなかに、中学生が自由に使えるスペースをつくるような大胆な展開はなかなか難しいでしょうから、行政にも参加していただいて、中学生の居場所をつくってあげたいと思っています。

○**事務局** 最近、子どもの居場所に関心のある方が増えてきていると感じます。それぞれの考える居場所が、不登校の子どもが行く場所なのか、中学生の放課後や土日の場所がないことなのか、さまざまであると感じています。この居場所と合わせて、子ども食堂のような食事にも関心を持つ方から、活動したいという意見や武蔵野市にそのような場所があったらいいという意見を、最近よくいただくようになりました。

○**委員** それに関連した話ですが、中町にある個人宅で学習支援や子ども食堂をやっている団体がありまして、自分は勉強を教えられる人を紹介する役割としてかかわっていました。そこには不登校の子どもも通っていました。しかし、隣近所から、自転車で来る子どもたちがうるさいから出ていってほしいとクレームがあって、自宅を開放して下さっていた方は気持ちよく貸してくれていたのに、そこで活動できなくなってしまったんです。通っていた子どもたちがその後どうしているのか心配です。そのような事例もありました。

○**委員長** どうしても人が集まると、駐輪の問題や声の漏れ等が原因で、近隣から苦情が出ることがあります。子どもの居場所だけでなく、大人の居場所でも同じことが起

こり得ると思いますので、居場所を増やすにあたって近隣との関係はポイントです。また、不登校の居場所というと、近隣にばれてしまうと居づらいことから、自分の家の近くにはいきたくないということがあります。不登校について、単独の市で考えるのではなく、近隣市区と連携していけると良いと思います。たとえば、武蔵野市の子どもが市内の居場所に行きたくないと言ったときに、近隣市の居場所に連携してつなぐことができたらいいと思います。また、中学生の居場所と一括りに考えるのも難しいです。私の世代では、頻繁にゲームセンターに通っていた記憶がありますが、今は中学生がゲームセンターでお菓子を食べながら、2～3時間もいたら怒られてしまいます。そう考えると、私たちが思う中学生の居場所で失われているものもあるので、改めて中学生が自由になにかできる場所があるといいなと思います。

○委員 世代によって、居場所の定義も様々あると思いますので、固定された場所だけでなく、それぞれが行けるようなチャンネルがあると良いと思います。委員の話は存じ上げなかったのですが、せっかく善意で良い取り組みをしたとしても、近隣の方からの苦情などに配慮しなければならないと存続しづらいという活動の難しさを感じました。冒頭の話に戻りますが、国が進める重層的支援体制整備事業に、居場所づくり支援も入っています。市として何をしていくかはまだ決まっていますが、国の方向性に合致していきたいと考えています。そこに武蔵野市ならではの通いの場として、テンミリオンハウスやいきいきサロン、市民社協が推進する身近な居場所づくりの立ち上げ支援などもありますし、市民の力があるポテンシャルの高い地域だと思いますので、国の動向を踏まえ、地域社協や市民社協とも相談しながら、どのような居場所づくりができるか考えていくべきと考えています。

○委員長 居場所づくりについて、行政と市民社協と市民とで連携しながら、今後どうあるべきか議論を進めていただければと思います。

○事務局 説明（略）。（重点的な取り組み（2）さまざまな相談の場と機能の充実）

○委員長 様々な相談の場と機能の充実という点で、特に地域住民が他の住民に対して、武蔵野市の福祉の状況や相談窓口等を伝えていくにはどうしたらよいかという視点でよろしいでしょうか。基本的なところで、住民が武蔵野市の福祉を知っている状況において、どのような場面が多いのでしょうか。

○委員 やはり、自分から勉強していかないと、ただ座っているだけだとあまり情報は入ってきません。市民社協でやっていただけるなら、武蔵野市の福祉の根幹になるような取り組みや施策を体系的にまとめて、地域社協にかかわる人に説明してほしいです。地域社協にかかわる人は、そのようなことを他人に聞かれたときに答えられるといいなと思います。

○委員長 委員のように、しっかりと勉強される方は多くはないかもしれませんが、説明できる市民層がいる一方で、テンミリオンハウスのことは知らないが、そのことを知っている人はわかるというつなぎの役割の人もいるでしょう。市民社協としては、市民のどういう姿を目指すのが大事だと思います。いろいろなことを知っている委員のような方を仮に「スーパー市民」としたときに、そのような方を養成するという視点も大事ですし、全員がスーパー市民になることは難しいので、スーパー市民につな

ぐ役割を育てていくことも大切だと考えます。市民社協としてどういう戦略を持つかという視点が大事ですが、どのように考えますか。

○**事務局** 重点的な取り組みを振り返るときに、この項目は様々な要素が含まれていると感じています。委員長が仰るとおり、どのような姿を目指すかという視点について、第5次活動計画では目標が具体的に「振り返り」「評価」「実行」がしやすいと感じました。

○**委員長** 第5次活動計画ではもう少し意識的に組み込んでいくことが大事だと思いました。

○**委員** 改めて委員の姿勢を伺って、武蔵野市には熱心な市民がいるとわかりました。武蔵野市の福祉をどうやって知っていただくかは、制度の周知や広報も含めて、市の一番大きな課題であると感じています。発信しても、受け手に伝わっていないということが多々あります。市でも健康福祉の計画を立てるにあたり、地域の意見を伺う場を設けて、周知に努めているつもりですが、なかなか広く伝わらない現状があります。そのなかで新しい策として、一定数の市民が知りたいと集まったときに、出前講座という形式で、関心のあるテーマや制度について説明させていただく方法が、話し手と受け手のニーズが合致する一つの手段となり得るかと考えています。市民活動推進課で「どこでもミーティング」という講座を実施しています。市の施策に関する様々なジャンルについて、担当課が説明に伺います。

○**委員** ボランティア団体の会議等に参加していると、それを通じて地域の情報を知る機会がありますが、活動にかかわっていない一般住民にはまだまだ伝わりづらいと思います。最近、地域の小学校で、境南フェスティバルというイベントを開催しました。小学生の各クラスが自分たちの近況報告を行うだけでなく、地域社協やコミセン、警察、JR、近所のスーパーなど、地域の各団体も参加して、活動を発表しました。地域社協でもブースをもらって、民生委員や市民社協と一緒に相談窓口のチラシを配りました。そこで若いお母さんたちがチラシを持って帰ってくれました。若い方たちに知らせる機会として、良かったと思います。今回はチラシの枚数分しかお知らせできなかったかもしれませんが、そのような機会が増えてくると、日頃意識して地域にかかわっているボランティア団体だけでなく、いろいろな人に伝わるのではないかと思います。また、今回同じように出た団体同士で、お互い参考になる話題も情報交換できましたので、活動がつながっていくきっかけになる事例だと思います。

○**委員長** 2人の委員が話してくださったようにいろいろなチャンネルがあった方がよいと思います。そのような取り組みを活用しながら、武蔵野市の福祉について知ってもらうということです。いま福祉そのものが複雑でわかりにくくなっているのです、どうわかりやすく伝えるか工夫が必要です。たとえば、話し合いの場に専門職が行って説明をしたり、集まった機会に横のつながりで知識を深めていったりと、様々な手段を研究していく必要があると思いました。

○**委員** 地域支援課として、地域の方々とかかわる中で、市民社協がいろいろな方を支援する役割として機能していると感じています。地域担当職員がいることで、地域に市民社協が認知され、また、地域社協としても地域担当がいることで、地域の取り組みが深まっているのではないかと思います。地域住民は自分の地域内の取り組みはよく

知っていますが、地域担当が参加することで、他の地域の好事例を聞いて横展開ができるのではないかと考えています。改めて、この場で地域担当の役割について説明いただくとともに、良い展開事例があれば報告書に記載されると良いと思います。

○事務局 地域担当が地域の活動に行った際に、役員会の前後で相談を受けることがあります。地域社協の役員の方であっても、わざわざ市民社協に電話をかけて相談するより、職員が伺った際に顔を見て気軽に相談できた方が、相談するハードルを低く感じてもらえるのではないかと感じます。地域社協の横の情報交換については、地域社協代表者連絡会などで実施できないか検討を進めていきたいと思っています。

○委員長 市民社協の地域担当が果たす役割は大きいと思いますので、今何をやっているのかの記載はもちろんです。ぜひどのような展開ができるかについても第5次活動計画で検討したいと思っています。それでは次の地域社協の発展の話題に移ります。

○事務局 説明（略）。（重点的な取り組み（3）地域社協の発展）

○委員長 転入者に対してどうアプローチしていくのかについて、いろいろとご意見があるとしますので、伺っていききたいと思います。

○委員 今やっていないかもしれないのですが、以前、市民活動推進課で転入者に対してコミセンとはなにかというパンフレットを渡していたと認識しています。転入していきなりは読まないかもしれませんが、市の情報が入ることは大事だと思います。それともう一つ、申し訳ないのですが、地域支援課はどういう部署なのですか。

○委員 地域支援課は幅広く地域の福祉活動等を支援していく部署です。主には、民生児童委員協議会、赤十字奉仕団、保護司会、そして地域社協等が支援の対象です。そのほか、昨今社会情勢が変わった際、低所得者層への給付金等を行う場合の担当窓口も担っています。広く地域の活動団体と協働しながら、活動を進めています。冒頭、健康福祉総合計画を策定していますと申し上げましたが、5つの課がある健康福祉部の全体的な事務や取りまとめも行っています。

○委員 話を伺っていると、地域支援課とコミセンを所管する市民活動推進課とでよく連携をとっていただければと思いました。市内すべてのコミセンがどのくらい活用されているかわかりませんが、私の所属するコミセンの新しい活動として、今年度から子ども食堂を開催しています。市内の団体から、場所がないので月1回程度コミセンを貸してほしいと相談がありまして、使っていただいています。また、9月から認知症予防の活動も月2回始まりました。これらは今までよく利用されているような地域や福祉系の市民団体ではなく、今までつながりのなかったNPO法人です。まったく新しい層の人たちがコミセンを使うことになったことで、場所がなくて困っている団体ももっといるのではないかと思います。そのような団体の情報を市でキャッチしてもらって、つないでもらえたらと思います。コミュニティ協議会内で協議すると、中には「営利的な活動をされるかもしれないから貸さない方が良いと思う」という意見もありますが、一般的にはNPO法人は非営利の団体であって、儲けるために活動しているわけではありません。そのような法人に対して理解されていない方もいるので、コミセンと、まだかかわっていない団体とが知り合っていけるような形をとってもらえるとありがたいです。

- 委員 仰る通りです。他のセクションがなにをやっているか、同じような取り組みはまとめたり、連携していったりできないかという議論は市役所内でもはじめていますので、教えていただいた情報などの共有も必要であると思いました。
- 委員長 武蔵野市というとコミュニティ構想が1970年代頃に始まって、すでに50年ほど経っていると思いますので、コミセンには住民自治の拠点として築いてきた歴史があります。一方で30年ほど前に整備された地域社協も、この地域に根付いています。それらがどうつながるのかが、新しい武蔵野市の福祉を考えるうえで重要だと思います。活動計画の中に、コミセンを位置付けにくいのは、市民活動の部署に位置付けられていて、部門が違うからという意見はわかります。私も武蔵野市の活動計画の策定に長くかかわっていますが、ずっとコミセンとの連携が大事だと思いつながりにくいということは重々わかってはいます。地域社協の発展や新しい武蔵野市の福祉を考えるうえで、コミセンとの関係は避けられないと思います。どう連携していくかは、第5次活動計画にある程度盛り込んでいく必要があると思いますので、まずは第一歩を位置付けられると良いと思います。
- 委員 先ほど話した吉祥寺南町居場所プロジェクトの話になりますが、私はコミセンと地域社協の活動をどう結び付けていくかが大事だと思っています。居場所プロジェクトを開催するうえで、もう一つお話ししたい背景として、コミセン自体は実行部隊ではないということです。部屋を貸したり、文化祭などを開催したりしていますが、たとえば文化祭もコミセンだけが積極的に展示をするのではなくて、様々な団体に場所を貸して成り立っているのです。そう考えると実行部隊をどこかで補わないといけないので、居場所プロジェクトのような団体をつくっています。また、居場所プロジェクトは意図的に、あえてどこの団体にも帰属せず焦点をぼかしています。そうすることで、コミセンの持つ力をまちに広げられないかと考えています。地域社協とコミセンの連携を考えていくには、たとえば、この居場所プロジェクトのような一つ別の団体を起点としてつなげると良いのではないかと思います。単純に仲良くしなさいと言っても、元々目的や系統が違うので、それらを結び付けるにはなにか違うキーポイントが必要だと思います。それから、この前も「地域社協って何をやっているのか」を聞かれましたが返答が難しいんですね。コミセンは何かと聞かれると建物を示すことができます。一方で、地域社協は拠点があるわけでもないし、たとえば、地域社協で開催しているクリスマス会が福祉の何とつながるのかと聞かれても説明が難しいです。結果として人が仲良くなるためにという話をしてはいますが、もう少し単純化していかないと伝わっていかないのではないかと思います。どう伝えたらいいかというのは常に感じています。
- 事務局 地域社協の皆様からも、たとえば、地域社協のクリスマス会に来ている方から、会場となるコミセンは地域社協専用の拠点ではないこともあって、主催者がどこの団体かわかりづらい活動が多いという話を伺います。地域によっては、ゼッケンや地域社協名の入ったのぼり旗を建てようという工夫していますが、なかなか建物やシンボルマークがないうえに、活動を一言で説明しづらいので、一緒に活動しようと誘う際に、説明しづらいというご意見もあります。「②地域社協の活動の魅力を発信できている」にて、地域社協のプロモーションビデオの作成を目標にして、まずは13地域合

同のものを短時間でわかりやすく説明したいと考えていたのですが、今回取り組めなかったので、第5次活動計画の策定で地域の皆様と一緒に考えていきたいです。

- 委員長** そういえば昔東京都社会福祉協議会が作成したビデオがありました。
- 事務局** 武蔵野市が都内で先駆的に、全市で地域社協（全国的には「地区社協」）を配置していたことがありまして、東京都社会福祉協議会が全都的に地区社協のような住民組織を広めようとビデオを作成して、いろいろな人に見てもらうことで活動を広めようという啓発の動きがありました。
- 委員長** 映像の方が、言葉で伝えるよりメッセージ性が高いと思います。ただ、きちんと作ろうとすると、費用がかかると思うので、やり方は考える必要がありますね。
- 事務局** 説明（略）。（重点的な取り組み（4）地域福祉コーディネーター（仮称）の役割や機能の整備）
- 委員長** 振り返りシートで挙げた機能は、すべて必要な機能であると思います。重層的支援体制整備事業を展開していくうえでも、鍵となってくるのは地域福祉コーディネーターやコミュニティソーシャルワーカーと呼ばれるような役割の人なので、地域担当の機能が求められることは間違いのないと思います。ただ、それぞれの地域性が当然ありますので、「地域福祉コーディネーターのベースにある機能」と「武蔵野市ならではの求められる機能」をどう整理するかが、次期の展開になると思います。この件は、ずっと検討を進めてきたところですので、きちんと位置付けられたことは良かったと思います。
- 委員** 地域福祉コーディネーターの位置付けは、市の地域福祉計画にも記載していて、長年の検討課題であったと思います。市としても、武蔵野市における地域福祉コーディネーター機能について市民社協と検討してきました。その結果、地域福祉コーディネーターの機能を検討する中で、現在の地域担当職員の機能を拡充するという形で整理をし、今後は地域で活動する個人から団体までの相談対応を強化することになりました。市と市民社協で検討したイメージとしては、重層的支援体制整備事業の包括的な相談支援体制において、生活レベルが落ちてきて、福祉サービスが必要にもかかわらず、地域で誰ともつながりががないためにつなげていない方を、市でなかなか把握することが難しいため、互助のつながりの中で発見していただき、市も含めた支援体制につなげていくことができると考えています。それは、活動計画と連動していく地域福祉計画にも明文化しています。一体的な計画として、第5次活動計画でも同じように進めていただければと思います。地域福祉コーディネーターという名称については、市内に様々なコーディネーターが乱立しているため、武蔵野市では、「地域担当」という名称や機能がすでに広まっていることもあり、名称は踏襲しながら機能拡充していくという方向となりました。
- 事務局** 地域福祉コーディネーターは、第3次活動計画から記載して、長年課題として検討してきつつも、結論が出せていなかった事項でした。それが第4次活動計画のなかで一定の方向性が示せたことについては、事務局としてもホッとしています。この期間で名称についても議論を重ねていまして、コーディネーターという言葉のニュアンスとして、仲介だけして最後まで引き受けてくれないのではないかという意見もありまして、武蔵野市の中で、市民社協の職員が、地域担当として顔の見える関係性を

築いてきた流れを大事にした方が良いという意見が「地域福祉コーディネーター立ち上げ検討委員会」でも出たこともあり、委員が仰ってくださった方向性で整理しました。基本的には、武蔵野市で重層的支援体制整備事業が進められていく中で、市と連携をしながら、徐々に入り込んで展開できるような足場づくりを進めています。名称は変わりますが、機能・役割としては予定通り展開していきたいと考えています。

○**委員長** 具体的にどう広げていくかは、また第5次活動計画で考えていきたいと思いません。

5 事務局からの報告事項

○**事務局** 次回の推進委員会は、令和6年5月下旬に第3回を予定しています。本日協議しましたステップ3を含め、これまで検討いただいたステップ1・2を合わせた報告書を作成する予定です。今回の意見を踏まえて、4月上旬までに素案を作成し、日程調整表と併せて、送付いたします。皆様に確認いただいたものを第3回の推進委員会で取りまとめていきたいと考えています。併せて、第5次活動計画に向けての意見もいただきたいので、その時間も第3回に入れさせていただきます。

○**委員長** 次回は年度明けになります。またその際にご意見をいただければと思います。これで第2回の推進委員会を終了いたします。

5 次回日程について

第3回推進委員会：令和6年5月下旬

武蔵野市民社会福祉協議会 会議室にて開催

(午後8時29分 閉会)
